

2018年度 第64回全日本中学校通信陸上競技 青森大会
兼 第45回全日本中学校陸上競技選手権大会青森県選手選考会
兼 第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会青森県選手選考会
兼第73回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会
実施要項

- 1 主催** 公益財団法人日本陸上競技連盟 公益財団法人日本中学校体育連盟
 一般財団法人青森陸上競技協会
- 2 共催** 青森県中学校体育連盟
- 3 後援** 青森県教育委員会・公益財団法人青森県体育協会
- 4 主管** 一般財団法人青森陸上競技協会・青森市陸上競技協会
- 5 協力** 青森市内中学校陸上競技部
- 6 期 日** 2018年6月30日(土)～7月1日(日)
 ※6月30日(土) 8:30 開会式 ※監督会議は行わない
- 7 場 所** 青森県総合運動公園陸上競技場 (〒038-0021 青森市安田字近野 234-7)
- 8 競技開始** 第1, 2日 9:00～
- 9 種 目** は2日目 ※四種競技は2日間で競技を行う

男子	1年	100m 1500m
	2年	100m
	1・2年	低学年4×100mR (1日目予選・2日目決勝)
	3年	100m
	共通	200m 400m 800m 1500m 3000m 110mH 走高跳 走幅跳 棒高跳 砲丸投 円盤投 <u>ジャベリックスロー</u> 四種競技 <u>4×100mR</u>
女子	1年	100m 1500m
	2年	100m
	1・2年	低学年4×100mR (1日目予選・2日目決勝)
	3年	100m
	共通	200m 800m 1500m 100mH 走高跳 走幅跳 砲丸投 円盤投 <u>ジャベリックスロー</u> 四種競技 <u>4×100mR</u>

(1) ハードルは次の規格で行う。

男子…110mH 高さ：0.914m インターバル：13.72m－9.14m…14.02m

女子…100mH 高さ：0.762m インターバル：13.00m－8.00m…15.00m

(2) 四種競技は、2日間で競技を行う。

男子…1日目：110mH、砲丸投 2日目：走高跳、400m

女子…1日目：100mH、走高跳 2日目：砲丸投、200m

※砲丸投げの砲丸は、男子4.0k、女子2.721kを使用する。

※得点表は、男子10種競技・女子7種競技のものを使用する。

(3) 共通砲丸投の砲丸は、男子5.0k、女子2.721kを使用する。

- (4) 共通円盤投の円盤は、男子 1.5k、女子 1.0k を使用する。
- (5) 共通ジャベリックスローのジャベリックは、男女共に 0.300k を使用する。

10 参加資格

- (1) 青森県中学校体育連盟に加盟する中学校に在籍し、校長が参加を認めた生徒。
- (2) 過年齢生徒の参加については、体力的、技術的要因が大きく関わると考え、満 16 歳に達した年度まで出場できるものとする。また、学年指定種目については、該当年齢とする。
- (3) 全国中学校体育大会に参加を認める「参加資格の特例」
 - ① 学校教育法第 134 条の各種学校（1 条校以外）に在籍し、都道府県中学校体育連盟の予選会に参加を認められた生徒であること。
 - ② 参加を希望する各種学校は以下の条件を具備すること。
 - ア 全国大会の参加を認める条件
 - ・（財）日本中学校体育連盟の目的及び長年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
 - ・生徒の学齢及び修業年限が我が国の中学校と一致している単独の学校で構成されていること。
 - ・参加を希望する学校にあたっては、運動部活動が学校教育の一環として、日常継続的に当該顧問教員のもとに適切に行われていること。
 - イ 全国大会に参加した場合守るべき条件
 - ・全国大会開催基準を守り、出場する競技種目の大会申し合わせ事項等に従う事とともに大会の円滑な運営に協力すること。
 - ・全国大会参加に際しては、責任ある当該校校長又は教員が生徒を引率すること。また、万が一の事故に備え、傷害保険に加入するなどして、万全の事故対策を立てておくこと。
 - ・大会開催に要する経費については、必要に応じて応分の負担をすること。
- (4) 2018 年度の青森陸上競技協会に登録し、参加料・登録料を納入したもの。

11 出場制限

- (1) 一人 2 種目以内とする。（ただしリレーを除く。）
- (2) リレーは 1 校各 1 チームとする。同一選手がリレーを 2 つ（共通・低学年）兼ねることはできない。
- (3) 低学年 4 × 100m リレーの登録は 6 名以内とし、各学年 4 名までとする。メンバーは 2 年生 2 名、1 年生 2 名とし、オーダーは自由とする。
- (4) 学年別種目は、当該学年に限る。その他は、1・2・3 年共通とする。

12 申し込み

メールにて 6 月 13 日（水） 23:59 まで必着で申し込んで下さい。

青森陸上競技協会HP (<http://www.jomon.ne.jp/~arikkyo/>) を参照し、青森陸上競技協会競技部まで申し込んでください。

【申込専用メールアドレス】 tsushin2018@mutsu-rk.jp

登録者（代表者）に、メールで申込ファイルを送信いたします。メール受信者

側のパソコン環境によって、迷惑メールフォルダ等に送付されている場合があります。申込締切1週間前になっても申込ファイルが届かない場合は、申込締切に間に合うように、下記の【申し込みに関する問い合わせ先】まで連絡ください。

申込ファイルに、参加者を入力し、申込専用メールアドレスに送信して下さい。メールアドレスは、大会毎に異なりますので、ご確認願います。参加料は各団体で取りまとめた上、団体名（振込人名）がわかるように振り込んでください。

【申し込み注意点】

- 大会申込作業を代行会社に委託しているため、申込締切後、申込変更（ナンバー、氏名、所属、学年、種目等）や申込遅延などの受付はできない。当日の追加・訂正も受け付けない。
- 申込ファイルについて、様式（セル内の数式、ロック）を変更せずに入力してください。変更した場合、申込ファイルを受付できません。
- 申込を受付した際、必ず業者からその旨を伝えるメールが返信されます。そのメールの受信を必ず確認してください。返信メールがない場合は、受付が完了していない可能性があります。
- 登録番号（ナンバーカード）の入力について
 - ・昨年度の登録番号を忘れずに入力してください。
 - ・新中学1年生や2017年度未登録者、登録番号の不足については、入力しないでください。その番号については、事務局で割り当てし、連絡いたします。
- 申し込みファイルを削除してしまった場合や、締切1週間前までに申込ファイルが届かないといった場合など、申し込みに関して不明な点がある場合は下記の【申し込みに関する問い合わせ先】へお問い合わせください。

【申し込みに関する問い合わせ先】※メールのみ対応

青森陸上競技協会競技部 石崎光晴 higashidoori_chuu01@sunny.ocn.ne.jp

13 参加料

個人1種目1,000円、リレー1チーム1,500円

必ず申し込みと同時（同日中）に、銀行振込で納入してください。

【振込先】 青森銀行 新町（シンマチ）支店 普通 3043158
青森陸上競技協会競技部 代表 川下 友徳

※手数料は、各学校で負担してください。振り込みの際は、全ての個人種目数・リレーチーム数のエントリー分の参加料を合計した金額を、一括して振り込むこと。

※振込名は、通帳記帳の印字に制限があるため、学校名が判別できるように入力してください。

振込名はプログラム記載学校名が望ましいです。

例1) 青森市立沖館中学校の場合、青森市立はつけないで、「オキダテチュウ」等のように入力する。

例2) 一・二・三や東西南北が付く中学校は市町村も付けて入力する。

弘前市立第一中学校 → ×「イチチュウ」 ○「ヒロサキイチチュウ」等

八戸市立東中学校 → ×「ヒガシチュウ」 ○「ハチノヘヒガシチュウ」等

例3) 同一の中学校名は市町村を付けて入力する。

むつ市立川内中学校 → ×「カワウチチュウ」 ○「ムツカワウチチュウ」等

※本大会参加料の振込先と選手登録料『青森県競技者登録』の振込先は異なります。間違えて振り込むことのないようご注意ください。なお、申込締切後、個人・団体・学校事情等による参加料の返金には応じられませんのでご了承ください。

- 14 参加料の領収書について** 参加料は銀行振込のため、銀行振込明細書をもって参加料の領収書の発行に代えます。銀行振込明細書が税務上も正規の領収書となります。ただし、参加団体が銀行振込明細書とは別に、領収書の発行を希望する場合は、青森陸上競技協会HPより「領収書」の様式をダウンロードし、必要事項を記入の上、銀行振込明細書とともに受付に持参ください。受付にて内容を確認の上、押印して領収書をお渡しします。
- 15 申込状況の確認** 申し込み状況及び参加料の振り込み状況は、青森陸上競技協会HPで確認できます。担当者が手作業で行うため、HPに掲載されるまで時間がかかることもあります。
- 16 表彰** 第1位～第8位までを表彰する。
- 17 その他**
- ・各参加団体がスポーツ障害保険等に加入の上、本大会に参加してください。
 - ・本競技会で得た個人情報については、個人情報の保護に関する法律を遵守し、競技運営に必要な連絡などに利用する。また、運営や宣伝などの目的で、プログラムやインターネットなどの媒体に掲載することもある。
 - ・棒高跳のポール以外の用具は、原則として競技場備え付けの物を使用します。
 - ・組み合わせは、2018年4月1日から6月13日までの記録を参考に、機械による抽選をして決定します。
 - ・競技日程（タイムテーブル）については、「案」を青森陸上競技協会HPに掲載する。申込締切後、競技時刻などが確定次第、「確定版」を青森陸上競技協会HPに掲載します。「確定版」の競技日程の掲載は6月25日（月）以降の予定です。
 - ・主競技場、補助競技場について、大会前日の6月29日（金）16:30までは他の競技団体の利用予約が入っています。利用する場合は、競技場に確認の上、ご利用ください。なお、利用料金については、各団体での負担となります。
 - ・テント設営（確保も含む）は、公平性を保つために6月30日（土）の開門6:30以降に行ってください。（設営場所は、中体連が作成する2018年度テント割りを参考にしてください。）
 - ・砲丸投に限り、本競技場の投擲ピットで投擲練習を行うことができます。

2018 年度 全日本中学校通信陸上競技大会 青森大会 競技注意事項

1 競技規則について

(1) 本大会は、2018 年度(財)日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2 練習について

(1) 練習は、プログラム記載の指定された会場で、「練習会場使用日程」に従い実施すること。

(2) 練習は、原則監督の付き添いのもと安全に留意し事故防止に努めること。

3 招集について

(1) 全ての競技の招集所は 100m スタート付近スタンド下に設置する。

(2) 招集開始時刻（点呼開始時刻）及び招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準として下記の通りとする。

種 別	招集時刻	予 選		決 勝	
		開 始	完 了	開 始	完 了
トラック 競 技	1 組～ 5 組	30 分前	15 分前	30 分前	15 分前
	6 組～10 組	15 分前	0 分前	※	※
	11 組～15 組	0 分前	15 分過	※	※
	16 組～	15 分過	30 分過	※	※
跳 躍 競 技		※	※	60 分前	45 分前
棒 高 跳		※	※	75 分前	60 分前
投 て き 競 技		※	※	60 分前	45 分前
混 成 競 技 (四 種 競 技)		トラック競技		30 分前	15 分前
		フィールド競技		45 分前	30 分前

(3) 招集の方法

①競技者は招集開始時刻（点呼開始時刻）までに招集所に集合して、競技者係より点呼を受ける。その際、ユニフォーム、ナンバーカード、競技用シューズ、商標および競技場内への持込物品などについて確認を受ける。なお、携帯電話などの通信機器は競技場内に持ち込んではいない。持ち込んだ場合は失格とする場合がある。

②点呼終了後、招集完了時刻（移動開始時刻）に競技場内のスタート地点に移動する。原則としてすべて係員の指示誘導に従う。移動の際は、スタンドの外を通ることとし、スタンド前及びスタンド下本部前を通らないこと。

③代理人による最終点呼は認めない。

④招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

(4) 招集の留意点

①出場すべき競技種目を棄権する場合は、「欠場届」（プログラムに掲載）に顧問または監督が記入し、招集開始時刻までに招集所の競技者係に提出すること。

②同時刻帯に 2 種目兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が、招集所に用意してある「多種目同時出場届」に記入し 1 種目目の招集時に招集所へ提出する。競技については担当競技役員に申し出て指示に従うこと。

- (a) フィールド競技に戻った場合、競技が終了していれば追加試技は行わない。
- (b) 走高跳・棒高跳においてはパス扱いとし、戻った時の高さから始める。
- (c) 走幅跳および砲丸投、円盤投、ジャベリックスローについては、競技に戻った時点のラウンドの試技を認めるが、トップ8が確定してからの試技は認めない。

③招集完了時刻に遅れた競技者は棄権したものとして処理する。

④リレーオーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻1時間前までに招集所の競技者係に提出すること。なお、一度オーダー用紙を提出した場合、時間内であっても訂正のオーダー用紙は受け付けない。

(5) 招集に関する提出書類は次のとおりである。

書類の種類	準備場所	提出場所	提出時刻
欠場届	プログラム掲載	招集所競技者係	招集開始時刻
多種目同時出場届	招 集 所	招集所競技者係	招集開始時刻
リレーオーダー用紙	招 集 所	招集所競技者係	招集開始時刻1時間前
棒高跳支柱移動届	招 集 所	招集所競技者係	招集開始時刻

4 ナンバーカードについて

(1) ナンバーカードは、本協会から配布されたままの大きさと胸部と背部に確実につける。ただし、跳躍種目に出場する競技者は、胸部または背部の一方でよい。

(2) 腰ナンバーカードについて

①トラック競技に出場する競技者(4×100mRは第4走者のみ)は、配布された腰ナンバーカードをランニングパンツ(タイツ)の右やや後方につけること。

②4×100mRの第2～4走者は、配布された腰ナンバーカードをランニングパンツ(タイツ)の左右やや後方につけること。

③腰ナンバーカードは、主催者が準備し招集所で配布する。競技終了後、ゴール地点でゴミ箱に入れること

(3) 特別ナンバーカードについて

①特別ナンバーカードは、主催者が準備し招集所で配布する。混成競技(四種競技)は混成競技控え室で競技役員より配布する。なお、招集所での点呼の際は胸部の正規ナンバーカードは着用せずに持参し、招集所で配布される特別ナンバーカードを着用すること。特別ナンバーカードは競技終了後、ゴール地点で回収する。

②3000m競技は、招集所で配布される周回確認用の特別ナンバーカードを胸部に使用する(背部はプログラム記載のナンバーカード)。

③混成競技(四種競技)の最終種目では、総合順位の順に特別ナンバーカードを胸部に使用する(背部はプログラム記載のナンバーカード)。

5 番組編成について

(1) 予選におけるトラック競技の組合せ及び走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の左側の番号で示す。

(2) トラック競技の準決勝以降の組合せ及び走路順は、主催者が決定し、決定次第招集所の掲示板に掲示する。

(3) トラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者がでたとき（以下同タイム者という）は、次の方法で決定する。

①100m・200m・400m・100mH・110mH・4×100mR の同タイム者（チーム）については、細部（電気計時 1/1000）まで読み取り着差の判定をする。それでも判定できない場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。

②800m・1500m・3000m の同タイム者については、細部（電気掲示 1/1000）まで読み取り着差の判定をする。それでも判定できない場合は、次のラウンドに進むことができる。その際、最終枠の同記録者で抽選を行う。同記録者が2人のとき、9人目の選手が入るのは8レーンとする。その場合、外側2レーン中位グループで抽選を行う。同記録者が3人の場合、10人目の選手が入るレーンは2レーンとし、内側2レーンは下位グループで抽選を行う。

6 競技について

(1) トラック及びフィールド内には、その競技を行う競技者並びに役員（審判員および該当補助員）以外は立ち入ることはできない。

(2) 競技中の助力については、規則第144条に基づくものとする。ただし、競技区域内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については、競技運営並びに他の競技者の妨げにならない範囲で、コーチングエリア内に限って認めるものとする。

(3) 競技者は、当該競技場を勝手に離れることはできない。また、ビデオカメラ・オーディオプレーヤー・トランシーバー・携帯電話もしくは類似した機器を競技区域内に持ち込むことはできない。

(4) トラック競技について

①スタートの合図は英語で行う。不正スタートをした競技者は、一回目から失格となる。混成競技においては各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートをした競技者はすべて失格となる。

②スタートについて（本競技会における第162条5の取り扱い）

「On your marks」あるいは「Set」の合図のあと

(a) 合図の後で正当な理由もなく手を挙げたり、立ち上がった場合

(b) 合図に従わない、遅れることなく速やかに最終の用意の位置につかない

(c) 合図後、大きな音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき

これらの不適切行為を行ったときには警告対象としてイエローカードを提示することがある。2枚のイエローカードの提示を受けた競技者は当該種目のみ失格とする。また、「Set」後タイミングを遅らせて腰を上げる、体が静止しなかった（ピクッと動く、腰のふらつきなど）場合には注意にとどめるが繰り返し行われたときはイエローカードを提示することがある。このときも2枚のイエローカードで当該種目は失格とする。

③トラック競技の着順と計時は原則として写真判定（1/1000秒）で行う。

④セパレートレーンで行うトラック競技における欠場者のレーンはそのままあけておく。

⑤セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のためフィニッシュラインに通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走って終了する。

⑥本大会において、リレー競技を2つ兼ねることはできない。

⑦リレー競技におけるメンバーの編成は、どのラウンドにおいてもリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる（奨励種目のみの競技者は別扱いとする）。ただ

し、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人は該当リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。予選に出場したメンバーはその後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代することができる。

- ⑧リレーオーダー用紙は、一度オーダー用紙を提出した場合、時間内であっても訂正のオーダー用紙は受け付けない。ただし、医務員の判断による変更は出場選手の変更のみ認められ、編成の変更は認められない。
- ⑨リレー競技において、チームの競技者は同一ユニフォームを着用しなければならない。
- ⑩4×100mRで使用するマーカー（粘着テープ）は各校で用意し、各走者1カ所（5cm×40cm以内）使用することができる。レース終了後、使用したマーカーは、責任を持って取り除くこと。
- ⑪トラック競技の競技者の退場は、フィニッシュラインに到着後、ゴール側ゲートから退場する。ただし、4×100mRの最終走者以外は、スタート地点に戻り、最寄りのゲートより退場する。

（5）フィールド競技

- ①公式練習は2回とし、競技場および競技区域内での練習は審判員の指示により行う。
- ②走高跳を除く跳躍種目およびジャベリックスローの競技者は、助走路の外側に主催者の用意したマーカーを2個まで置くことができる。また、走高跳競技に出場する競技者は、助走路内に各自が用意したマーカー（粘着テープ）を2個まで置くことができる。
- ③走幅跳について、計測標準記録を設ける。男子5m40以下、女子4m30以下は計測しない。また、出場選手が多い場合は、予選A・B組に分けて行うこともある。
- ④走高跳について、出場選手が多い場合は、予選A・B組に分けて行うこともある。
- ⑤棒高跳競技に出場する競技者は、支柱を自分の希望する位置に移動してもよい。ただし、希望する支柱の位置をあらかじめ「棒高跳支柱移動届」（用紙は招集所に準備）に記入して、招集完了時刻までに招集所競技者係に届け出なければならない。提出された用紙については、招集所の担当競技役員が現地まで持って行く。また、競技開始後に事前に届け出た支柱の位置を再変更する場合は、支柱がセットされる前に当該審判員に申し出る。
- ⑥棒高跳の公式練習は、ゴムバーで行う。
- ⑦投てき競技の計測は、光波測定器を使用する。ただし、砲丸投についてはメジャー計測とする。
- ⑧砲丸投については、計測標準記録を設ける。男子9m50、女子9m00以下は計測しない。
- ⑨円盤投については、計測標準記録を設ける。男子15m00、女子10m00以下は計測しない。
- ⑩ジャベリックスローについては、計測標準記録を設ける。男子35m00、女子20m00以下は計測しない。
- ⑪フィールド競技の競技者の退場は、係員の指示誘導による。

（6）混成競技（四種競技）

- ①混成競技に出場する競技者は、1種目でもスタートをしなかったか、または1回も試技をしなかったときは、それ以降の種目に参加することは許されず、競技を棄権したものとみなされる。
- ②混成競技においては、得点表にない記録は0点とする。

（7）競技規則第145条2及び第162条5の適用により、本競技会中に不当な行為（非社会的行為などが相当）で警告を2回受けた競技者は本競技会における以後のすべての種目に出場できなくなる。

（8）競技結果などは記録処理終了後、随時、青森陸上競技協会HPにて発表する。

（大会プログラム表紙のQRコードを参照してください）

7 競技用具について

- (1) 競技者が本大会で使用する用具は、棒高跳競技のポールを除いては、全て主催者が用意したものをを使用すること。
- (2) 競技者個人の器具は、練習用といえども競技区域内に持ち込んで서는ならない。

8 スパイクシューズの制限について

- (1) スパイクの本数は11本以内とする。
- (2) スパイクの長さは、9mmを超えてはならない。走高跳競技においては12mmを超えてはならない。直径は、先端が4mm以内でなければならない。

9 バーの上げ方について

- (1) 走高跳および棒高跳競技におけるバーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、次のとおりとする。
 - ① 下記のバーの上げ方を、天候その他の条件によって変更する場合は当該審判長が決定する。
 - ② 第1位に同順位者が出た場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳では5cm単位とする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	以降	全中標準	J0標準
棒高跳	3.00	3.10	3.20	3.30	3.40	3.50	3.60	3.70	3.80	3.90	10cm刻み	4.00	
男子走高跳決勝	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	<u>1.85</u>	1.88	<u>1.91</u>	1.94	3cm刻み	1.85	1.91
女子走高跳決勝	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	<u>1.60</u>	<u>1.63</u>	1.66	1.69	3cm刻み	1.60	1.63

- (2) 混成競技の走高跳のバーの上げ方は次のとおりとする。

- ① 下記のバーの上げ方を、天候その他の条件によって変更する場合は当該審判長が決定する。
- ② 男子・女子とも、競技は1組・2組とも並行進行とする。練習は、競技者がいずれか一方の高さを選択して、審判員の指導のもとに行う。

種目	区分	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	以降
男子四種 走高跳	1組	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.58	1.61	1.64	1.67	1.70	3cm刻み
	2組	1.50											
女子四種 走高跳	1組	1.10	1.15	1.20	1.25	1.28	1.31	1.34	1.37	1.40	1.43	1.46	3cm刻み
	2組	1.30											

10 抗議について

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は、規則第146条に基づき、正式に結果が発表されてから30分以内に、また、次のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから15分以内に、競技者自身または代理人が口頭で審判長に申し出る。
- (2) 口頭での抗議に対する裁定に不服の場合は、その競技者にかわる責任者（監督）が当該総務員を通じてジュリーに文書と預託金1万円を添えて正式な抗議の手続きをとる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

12 競技者の競技場内への持ち込み物品について

(1) 競技者は競技場内（練習場も含む）に、企業名、商標名等のついた物品を持ち込む場合は、規定にあったもの以外持ち込んではいけません。

(2) 商標について

商標等の規定については、「競技会における広告および展示物に関する規定」に違反したものについて主催者で処置する。

①上半身の衣類（ベスト・レオタード等）

・ベスト：衣類の製造会社名/ロゴを前に1ヶ所表示できる。その大きさは、各文字が高さ4 cm 以内、トータルロゴの高さは5 cm 以内で、面積30 cm²以内の長方形とする。

・レオタード：衣類の製造会社名/ロゴを前に1ヶ所または2ヶ所表示できる。1ヶ所の場合は、文字の高さ4 cm 以内、トータルロゴの高さは5 cm 以内で面積30 cm²以内の長方形とする。2ヶ所の場合はウエストより上部、下部にそれぞれ1ヶ所とするが、それぞれの表示が接してはならない。それぞれの文字の高さは3 cm 以内、トータルロゴの高さは4 cm 以内で、面積は20 cm²以内の長方形とする。

・トップス、トレーニングウェア上衣、Tシャツ、トレーナー、レインジャケット：衣類の製造会社名/ロゴを衣類の前（右胸か左胸）に1ヶ所表示できる。その大きさは、各文字が高さ4 cm 以内、トータルロゴの高さは5 cm 以内で、面積40 cm²以内の長方形とする。

②下半身の衣類（ソックス・ショーツ・タイツ等かぎ [レオタードを除く]）

・製造会社名/ロゴを1ヶ所表示することができる。高さは4 cm 以内、面積20 cm²以内とする（ソックスは高さ3 cm 以内、面積6 cm²以内とする）。

③競技中に競技者によって使用されるその他の衣類（ヘッドギア・帽子・ヘッドバンド・手袋・メガネ・サングラス・リストバンド等）

・製造会社名/ロゴを衣類1つにつき1ヶ所表示することができる。面積は6 cm²以内とする。

④バッグ

・製造会社名/ロゴは、各バッグ2ヶ所まで表示することができる。それぞれの表示の大きさは25 cm²以内とする。

13 表彰について

(1) 各競技種目の表彰は第8位までとする。

(2) 表彰対象競技者は、競技終了後直ちに、表彰控え場所へユニフォームを着用して集合すること。他の競技時刻と重なる場合は代理人をたてること。

(3) 表彰場所は、主競技場メインスタンド前で行う。状況等によってはメインスタンド下で行う。

(4) 4×100mRの表彰は第1走者～第4走者の4名で行う。

14 全国大会の手続きについて

(1) 今大会で全国中学校陸上競技大会の参加標準記録を突破した者、共通男女4×100mRで優勝したチームは、全国中学校陸上競技大会の出場資格を得る。結果が判明したら、ただちに本部内「県中体連陸上競技専門部事務局」で手続きを行うこと。

15 その他

- (1) 救急、救護に関する処置は、メインスタンド下の医務室で応急処置のみ行う。
- (2) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部及び競技場側の許可なく手配しない。手配する場合は、大会本部より車両の手配を行うため、詳細を含め大会本部に連絡する。
- (3) コーチングエリア内の立ち入りは、各校顧問・コーチを優先すること。
- (4) テント等の設営は、競技場のサイドスタンド及びバックスタンドの芝部分に設営すること。通路を妨げて設営したり、柵へ取り付けたりしないこと。また、競技終了後は、毎日たたむこと。
- (5) 競技場内の更衣室は使用してもよいが、休憩場所や控え場所としての使用は禁止する。
- (6) 届けられた遺失物については、大会本部で保管する。
- (7) 応援はスタンドで行うこと。ただしメインスタンドでの集団応援は禁止する。競技者や競技運営に支障のないように十分配慮すること。特に、フィールド競技の進行に支障のないように十分注意すること。
- (8) 盗難等がないよう持ち物及び貴重品の管理には十分注意すること。
- (9) 招集所からスタート地点への移動は、原則とし、スタンドの外を通ること。スタンド前は絶対に通らないこと。
- (10) その他、不明な点は大会受付・大会本部に問い合わせる。

2018年度 全日本中学校通信陸上競技大会 青森大会
<競技場使用についての注意事項>

1 主競技場の開門・閉門時刻

	6月30日(土)	7月1日(日)
開 門	6 : 3 0	6 : 3 0
閉 門	1 8 : 3 0	1 7 : 3 0

2 競技場・補助競技場・投てき練習場の使用について

- (1) 競技場・補助競技場での練習の際は、安全に留意し、監督の責任の下、練習を行ってください。
- (2) 各会場での練習については、別項「練習会場使用日程」を参照してください。

3 テント設営、横断幕・のぼりの設置について

- (1) 競技場周辺芝生部分はテント設営可能です。メインスタンドに、テントやタープ等を設営しないでください。通路を妨げたりフェンスに紐を結びつけての設営はおやめください。
- (2) 競技終了後、テント・タープ類は必ずたたみ、飛ばされないようにしてからお帰りください。
- (3) テント設営場所は「県中体連 各地区中学校テント配置」を参照してください。
- (4) 横断幕は、メインスタンド最上段、芝スタンド前のフェンスに設営してください。競技を行う上で支障があるときは、取り外してもらうこともあります。
- (5) 横断幕は1校1枚でお願いします。のぼりは、芝スタンド後ろのフェンスに設営してください。

4 駐車場について

- (1) 指定されている駐車場に駐車してください。
 - ①大型バス・マイクロバスなどバス類は、すべて第1駐車場に駐車してください。
 - ②大型バス・マイクロバスなどバス類は、プール、第3ゲート付近に駐車しないでください。
 - ③公園内×印は駐車禁止です。青森県立美術館駐車場には、駐車しないでください。
- (2) 救急車両等の通行の妨げとなるので違法駐車はしないでください。
- (3) 自動車およびいずれのバスもアイドリングストップに協力してください。

5 ゴミ処理について

- (1) ゴミは、各校(各自)でゴミ袋を準備し、持ち帰ることを原則とします。ただし、最終日のみ、正面スタンド外の南側階段下(ゴール側スタンド裏)のゴミ置き場に出すことができます。
- (2) ゴミ、タバコの吸殻等のポイ捨てはしないでください。

6 その他

- (1) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので、貴重品の管理は、各校の責任で十分注意してください。荷物を置いたまま、その場を離れることは絶対にしないでください。
- (2) 公園内施設(トイレや更衣室等)は正しく使用してください。器物や動植物等に悪戯をしないでください。
- (3) 競技場規則および申し合わせ事項に従い、ルールとマナーを守ってください。

第45回全日本中学校陸上競技大会 参加標準記録一覧表
2018年8月18日～21日（シティライトスタジアム・岡山県）

「★変更あり」

種 目	男 子（13種目）	女 子（10種目）
100m	11秒20	12秒53
200m	22秒75	★25秒80
400m	51秒60	—
800m	2分00秒50	2分16秒50
1500m	4分08秒50	4分38秒00
3000m	8分57秒00	—
ハードル	110mH 15秒00	100mH 14秒80
走高跳	1m85	1m60
走幅跳	6m55	5m45
棒高跳	4m00	—
砲丸投	13m00（5.0k）	12m50
四種競技	2500点 砲丸は4.0kg	2630点
共通 4×100mR	各都道府県1チーム （学校単独チーム）	各都道府県1チーム （学校単独チーム）

全日本中学校陸上競技大会出場資格

- （1）通信陸上大会・県中体連夏季大会において、標準記録を突破した者は、全国大会の出場資格を得る。ただし、競技規則49条により、2.1m以上の追い風（ただし、混成競技は含まない）を受けた記録は認めない。
- （2）共通4×100mRは、本大会の優勝チームが出場資格を得る。申込用紙は、本部内「県中体連陸上競技専門部事務局」に置く。申込先も同事務局とする。
- （3）青森県内で標準記録を突破した者が男女合計で10名に満たない場合は、青森県中体連陸上競技専門部の推薦により、10名を満たす人数まで出場することができる。
- （4）標準記録は、特例（停電・落雷のため等）を除き電動計時以外は認められない。

第49回ジュニアオリンピック競技大会 参加標準記録一覧表

2018年10月12日～14日（日産スタジアム・神奈川県）

2018.5.21 現在

区分	男 子			女 子		
	種 目	参加標準記録	参加標準記録 突破者	種 目	参加標準記録	参加標準記録 突破者
A	100m	10 秒 90		100m	12 秒 30	
	200m	22 秒 40		200m	25 秒 40	
	3000m	8 分 46 秒 00		3000m	9 分 51 秒 00	
	110mH (0.914m/9.14m)	14 秒 40		100mH (0.762m/8.00m)	14 秒 30	
	(0.991m/9.14m)	15 秒 10		(0.762m/8.50m)	14 秒 60	
	走 高 跳	1m91		走 高 跳	1m63	
砲 丸 投 (5.000 kg)	14m50		砲 丸 投 (4.000 kg) (2.721 kg)	11m20 13m80		
B	100m	11 秒 20		100m	12 秒 50	
	1500m	4 分 10 秒 00		1500m	4 分 36 秒 00	
	110mH (0.914m/9.14m)	15 秒 30		100mH (0.762m/8.00m)	14 秒 90	
	走 幅 跳	6m35		走 幅 跳	5m35	
	砲 丸 投 (4.000 kg) (5.000 kg)	14m50 13m00		砲 丸 投 (2.721 kg)	12m45	
C	100m	11 秒 80		100m	12 秒 80	
	1500m	4 分 25 秒 00		800m	2 分 18 秒 50	
	走 幅 跳	5m80		走 幅 跳	5m00	
A B C 共通 (中学生のみ)	円 盤 投 (1.500 kg)	39m00		円 盤 投 (1.000 kg)	34m00	
	ジャベリックスロー (0.300 kg)	1 名		ジャベリックスロー (0.300 kg)	1 名	
	※4×100mR	1 チーム (県選抜)	/	※4×100mR	1 チーム (県選抜)	/

※ は本競技会で採用する規格

1 選手の年齢区分について

(1) A

(高校1年生) : 2003 (平成15) 年1月1日生～2003 (平成15) 4月1日生

(中学3年生) : 2003 (平成15) 年4月2日生～2003 (平成15) 12月31日生

(2) B

(中学3年生) : 2004 (平成16) 年1月1日生～2004 (平成16) 4月1日生

(中学2年生) : 2004 (平成16) 年4月2日生～2004 (平成16) 12月31日生

(3) C

(中学2年生) : 2005 (平成17) 年1月1日生～2005 (平成17) 4月1日生

(中学1年生) : 2005 (平成17) 年4月2日生～2006 (平成18) 4月1日生

※中学1年生の早生まれ含む

2 ジュニアオリンピック本大会参加資格および選手選考について

(1) 2018年度日本陸上競技連盟登録者であること。

(2) 2018年4月1日～2018年8月25日の公認競技会において参加標準記録を突破した者。室内競技会の記録は無効とする。本県は、ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会(8/25実施)を最終選考会とする。選手は、9月上旬の青森陸上競技協会代表選手選考委員会で決定し、決定後、所属校に文書で知らせる。

(3) 参加標準記録を公認競技会で突破している選手は、ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会に出場しなくても本大会へ出場できる。

(4) 中学生の標準記録の突破者がいない種目については、それぞれの種目ごとに1名出場できる。

①同一区分の同一種目に2名以上出場する場合は、すべての競技者が公認競技会で参加標準記録を突破していること。

②Aにおいては、高校1年生の出場がある場合でも、中学3年生の標準記録突破者がいない場合には、中学3年生1名が出場できる。

(5) A・B・C共通(円盤投、ジャベリックスロー、リレー)については、中学生のみとし、高校1年生は対象としない。

(6) 参加標準記録を設けない種目について(男女・ABC共通ジャベリックスロー)は、本大会に各都道府県から1名のみ出場できる。

(7) 男女の県選抜4×100mRの選考は、青森陸上競技協会の代表選手選考委員会で決定します。

リレーの選手選考基準は、以下の通りです。

①2018年度第49回ジュニアオリンピック県予選会に出場している。

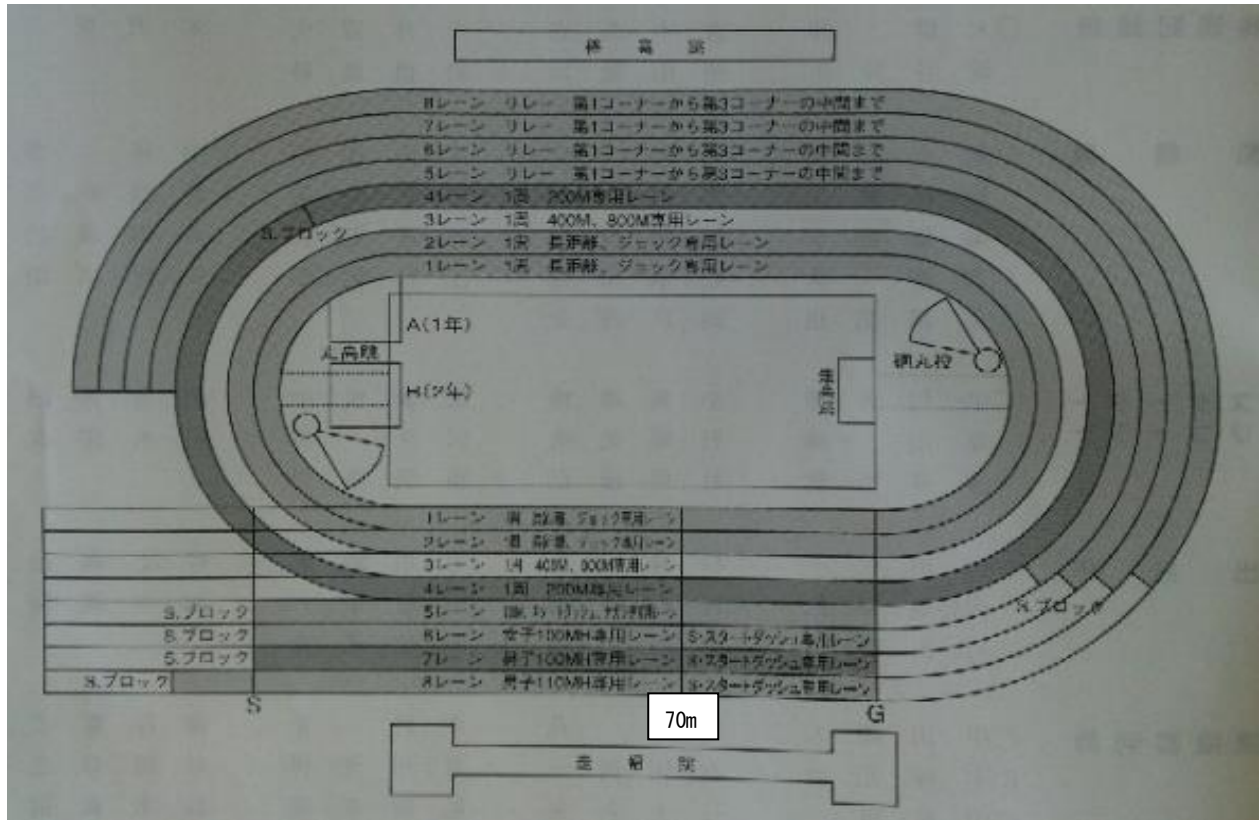
②2018年度第49回ジュニアオリンピック県予選会100mで1位～2位の選手。

※Aクラス、Bクラス、Cクラスから基本的に2名ずつ選抜する。

※県選抜リレーチームに選抜された選手は、本大会前に練習会を行う。練習会の日程や詳細については、後日、文書で知らせる。

(8) 上記の参加資格および選考基準を満たした者は、本部にて本大会参加の手続きを行うこと。

練習会場使用日程



【練習日時】

- 6月30日（土） 7：00～8：20 ※各校の責任の下で行ってください。
 7月 1日（日） 7：00～8：45 ※各校の責任の下で行ってください。

【主競技場】トラック・跳躍

主競技場のレーン使用区分等は、以下の通りとする。

	レーン区分	
①	トラックの外周芝及びフィールド内の外周芝はジョギング	
②	周回1・2レーンは中長距離、タイムトライアル用	
③	周回3レーンは400m・800m用	
④	周回4レーンは200m用	
⑤	ホームストレート5レーンは100m・スタートダッシュ・流し用	
⑥	ホームストレート6レーンは100m・スタートダッシュ・流し用	スタートダッシュ専用
⑦	ホームストレート7レーンは女子100MH（高さ0.726m、ハードル間8.00m）	スタートダッシュ専用
⑧	ホームストレート8レーンは男子110MH（高さ0.914m、ハードル間9.14m）	スタートダッシュ専用

70m

【主競技場】投てき

- (1) 砲丸投は主競技場内の砲丸投ピットに限り、投てき練習を可とする。
- (2) 公式練習以外で円盤・ジャベリックを実際に投げる投てき練習は終日禁止とする。
- (3) 円盤投は主競技場の円盤投ピットのサークル内で、ターンの練習のみ可とする。
- (4) ジャベリックスローは主競技場のやり投ピットの助走路での足合わせ、助走練習のみ可とする。

【補助競技場】トラック・跳躍

	レーン区分	使用可能時間	
		1日目	2日目
①	トラックの外周芝及びフィールド内の外周芝はジョギング	終日	
②	周回1・2レーンは中長距離、タイムトライアル用	終日	
③	周回3・4レーンは200m・400m スタートダッシュ用	終日	
④	ホームストレート3～6レーンは流し・スタートダッシュ用	ハードル種目以外の時間	
⑤	ホームストレート5レーンは女子100mH (高さ0.762m、ハードル間8.00m)	7:00～8:45	7:00～15:00
⑥	ホームストレート6レーンは男子110mH (高さ0.914m、ハードル間9.14m)	7:00～9:05	7:00～15:10

※投てき種目については、投てき用具を持ち込まなければ助走やターンの練習は許可する。

【投てき練習場】第3駐車場 ※砲丸投は終日使用可能です。

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
6月30日(土)	円盤投(男女)							ジャベリックスロー(男女)			
7月1日(日)	ジャベリックスロー(男女)										
	土手										
南 駐 車 場	野球大会のため 終日使用できません。				ジャベリックスロー						
	道路										

【練習会場での注意事項】

- (1) 練習は指定された練習会場で、監督の立ち会い・責任の下、上記の指定された時間で行うこと。
- (2) 練習会場には、選手、監督・コーチ以外立ち入らないこと。
- (3) 練習会場、特に投てき練習場では危険が伴うので、練習は十分注意して行うこと。
- (4) 各練習会場のトラックにおいて次の行為を禁止する。
 - ① ミニハードルなどの練習用具を使用しての練習。
 - ② 逆走、集団ジョグ、準備運動、ドリル等の技術練習。
 - ③ 急に減速したり、立ち止まったりする行為。
- (5) 全天候舗装の走路は、9mm以下のスパイクを使用すること。ただし、走高跳・ジャベリックスローについては12mm以下とする。
- (6) 練習会場において、全日程を通して競技の終了した種目の用器具は準備しない。
- (7) 投てき練習場で使用する投てき用具は、各校で準備すること。
- (8) 主競技場のメインスタンド下中央通路での練習は禁止する。
- (9) 使用した用器具は、きちんと片付けること。
- (10) 練習で使用したマーカー(粘着テープ)は必ず各自(チーム)で持ち帰ること。